

自然エネルギー財団主催 国際シンポジウム  
**REvision2017 の3つの見どころ**

公益財団法人 自然エネルギー財団は、2017年3月8日(水)に国際シンポジウム REvision2017 を「自然エネルギーが切り拓く未来」をテーマに、内幸町・イイノホールにて開催いたします。今回のシンポジウムの見どころを3つの角度からご紹介します。

---

1 世界のトップ企業が自然エネルギー100%をめざす「RE100」のビジネス戦略を紹介

---

REvision2017 では、世界のトップ企業が自社で使う電力を100%自然エネルギーにしていく「RE100」キャンペーンを紹介いたします。「RE100」にはすでに世界で87社が参加していますが、日本の企業はまだ一社も参加していません。

今回は、「RE100」に参加する世界的企業が自らの取組みについて紹介、また、これを後押しする米国・ロッキーマウンテン研究所のビジネス再生可能エネルギーセンターと、英国に本拠を置くクライメートグループが登壇し、世界でビジネスを展開するトップ企業たちが、なぜ、どのように自然エネルギー100%に転換しているのか、その戦略を紹介します。草の根レベル、自治体レベルでは、「Renewable 100%」キャンペーンを進める世界未来協議会が登壇します。

---

2 サウジ、フランス、日本の巨大企業トップが登壇、エネルギー転換戦略を語る

---

石油資源豊富な中東の国々も脱炭素化時代の到来を展望し、自然エネルギー開発に舵を切っています。今回は、中東、北アフリカで太陽光発電 開発などを進める先進企業、アクアパワーのパドマナサン社長が来日、化石燃料から自然エネルギーへのエネルギー転換戦略を紹介します。

フランスに本拠を置くエンジー(ENGIE)社からは、ルベック副社長が来日します。エンジーは、ガス・電気供給量で世界第2位の「GDF スエズ」が2015年に社名を変更した企業です。変更の理由は、化石燃料から自然エネルギー、エネルギー効率化ビジネスへの転換を明確に示すため。米国において870万kWの石炭発電、ガス発電を閉鎖するなど、自然エネルギービジネスへの転換を進めています。

日本からは日産自動車の志賀俊之副会長が登壇します。日産は電気自動車のトップメーカーの一つとしてCO2削減の取組をリード、世界の企業の脱炭素化を評価する「カーボンディスクロージャープロジェクト」でも、3年連続で最高評価に認定されています。

---

3 世界第一線のエネルギー専門家が最新の動向を語る

---

ロッキーマウンテン研究所のロビンス博士からは、自然エネルギー拡大がますます進む中国のエネルギー転換の未来、国際再生エネルギー機関(IRENA)のギーレン氏からは、G20 各国の自然エネルギーへの道筋が紹介されます。その他、世界風力発電協会、ドイツ・アゴラエナジーヴェンデ、米国立再生可能エネルギー研究所(NREL)など、世界の自然エネルギー専門家が集います。

日本からは、環境省の小林正明事務次官、経済産業省資源エネルギー庁の藤木俊光省エネルギー・新エネルギー部長のお二人が登壇し、自然エネルギー拡大が進む世界の動向を踏まえ、日本の気候変動対策、自然エネルギー政策をどう展開していくのかを語ります。

→プログラム詳細および参加登録は[こちら](#)から。皆様のご参加をお待ちしています！